

## 校名：弘前大学教育学部附属特別支援学校

所在地：〒036-8174 弘前市富野町 1-76

電話番号：0172-36-5011

記載日：2016年5月16日

記載者：加藤和仁

記載者役職：副校長

### 貴校の校風、おおまかな特色について：

学都弘前市の中心部に位置し、県内の特別支援学校の中では唯一都会的な印象がある。全児童生徒数57名と比較的小規模な学校であり、様々な行事等を通じて、児童生徒が学年・学部を超えて相互に深い関わりをもち、共に成長していく時間を感じ取ることができる。

弘前大学が近接していることにより、大学の校舎及びキャンパスを学習の場として活用する機会が多く、開放的な雰囲気味わいつつ実践的な学習活動に取り組んでいる。また、クロスカントリースキー、フライングディスク等のスポーツ活動の推進や、美術館及び地域の展示会場等を利用した作品展を開催するなど表現活動にも力を注いでいる。

### 貴校の卒業生の活躍状況について：

- ① 主に同窓会に来校する卒業生へのアンケート、現場実習巡回指導での情報収集、就職支援コーディネーターと連携した就労先訪問という形で実施している。
- ② 把握状況は全卒業生の約4割である。学校職員によるフォローアップを通して収集した情報は学校の移行支援部が管理している。また、地域の就業・生活支援センターに登録している卒業生の情報については、必要に応じて学校にも提供していただいている。
- ③ 就業・生活支援センター開所以前の卒業生については、地域の支援機関に登録できていない状況にあり、加齢に応じた就労支援や生活支援が必要な時期を迎えている。

### 貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

- ① 追跡調査は実施していないが、本校勤務経験者が公立学校においてリーダー的な立場として活躍し、教頭及び校長へと昇格している者も少なくない。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

「地方創生」の流れの中、地域活性化の中核的活動拠点として以下の取り組みを実践している。

- 1 特別支援学校等を活用した障害児・者のスポーツ活動実践事業（スポーツ庁委託事業）  
弘前大学教育学部と附属特別支援学校が障害者スポーツ振興の地域の拠点となることを目指し、スポーツクラブの設置やフライングディスク大会等を開催し実践研究を行う。
- 2 キャリア事業・就労支援等の充実事業（文部科学省委託事業）  
弘前大学教育学部が附属特別支援学校及び関係機関と連携して大学構内を学習活動の場として提供し、附属特別支援学校の小・中・高等部の児童生徒が計画的、組織的な学習を行い、系統的なキャリア教育を推進するとともに、大学や事業所への円滑な就労支援システムの構築を図る。
- 3 「障害者アートの現在地」としての「青森県内特別支援学校の児童生徒・卒業生の造形作品展」  
本展覧会は国際芸術センター青森（主任学芸員・近藤由紀氏）と連携し、青森県内の特別支援学校（20校）で行われている美術教育や福祉事業所における造形制作活動の取り組みを紹介する。これまでも各特別支援学校単独での作品展は開催されてきたが、このように学校及び福祉施設の枠を超えた展覧会は初の試みであり、弘前大学教育学部で学び、県内の各特別支援学校で活躍している教員間の連携があって実現したものである。
- 4 本校単独での「附属特別支援学校造形作品展」  
弘前大学教育学部美術科と連携して本校の児童生徒の造形活動の取り組みを市民に紹介する。制作に当たっては、校内での制作活動の他、児童生徒及び保護者が大学の美術制作室（アトリエ）を活用するなど、附属特別支援学校と美術科学生との交流を深める場ともなっている。

**地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：**

弘前大学の附属校ということで、地域では先進的な教育実践を行っている学校として高い信頼を得ており、本校に我が子を通わせている保護者にとっても、学校評価結果や学校行事等への積極的な協力、活発な「父母の会」の活動などから、本校に在学していることへの満足度の高さが窺える。また弘前大学が近接していることにより、大学という研究機関の一つであるという意識が地域に浸透しており、地域で暮らす障害のある人たちと研究機関としての大学を結ぶコーディネーターとしての役割を果たす上で、地域住民の理解という土壌ができています。

**附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：**

今日の学校現場では、教員の構成年齢層のギャップからベテラン教員から若手教員へと学習指導のノウハウが伝えられる昔ながらのスタイルが変容してきていると言われる。加えて昨今の学校現場は、多様な価値観を身に付けた子供や保護者への対応、障害特性への配慮、スクールコンプライアンスの問題など、これまでの学校観や教育観では対応できない様々な課題を抱えている。そんな中、“チーム学校”と題して様々な専門スタッフの活用が叫ばれているが、大学のように多様な専門分野で活躍されている先生方を擁し、さらには大学と附属学校との共同研究などを通して、現場の先生方が大学の実践研究に日常的に触れることができる環境は、これからの日本の教育を支えていく上できわめて有効な環境であるといえる。

前項の魅力ある取り組みでも述べたが、県内特別支援学校の造形作品展の成功は、弘前大学を同窓とする公立学校教員や、附属特別支援学校において研鑽を積んだ先生方の協働による成果といえる。その根底には、大学の附属学校という県立学校の枠に捕らわれない自由さの中で培われたチャレンジ精神があり、その精神を作品展という形で地域に発信した取り組みでもあった。このような大学と附属特別支援学校が核となる活動を通して、公立学校教員や地域の人々に対して大学の活用の仕方を提示するとともに、特別支援教育に携わる先生方の実践意欲の向上に寄与していくものと考えている。